

連載：原点

## 「常に初心を胸に。感謝を忘れずに。そして、日々勉強」

木更津高等学校 佐藤 淳司

「誰かの手助けをしたい。そんな仕事に就きたい。」その気持ちで私は5年間勤めた会社を辞め、教員の仕事を目指しました。それから2年。今年度、念願の教員になることができました。その間、臨任講師としてたくさんの方々に出会い、刺激を受け、学ぶことによって今の私があります。全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、今の職場でもたくさんのことを学んでいます。特に言葉の重要性を学びました。教員の言葉一つで、生徒の理解力が変わってくるし、間違っただけの解釈をさせてしまうこともある。その一つ一つの重みを学びました。私にとって毎日が勉強です。たくさんの人からたくさんのことを学んでいます。勿論、生徒からも。この姿勢をずっと貫き通し、教員として、また一人の人間としてより良くなっていきたいと思えます。

私が教員として数学を通して育みたいこと。それは考える力と問題を解決する力です。民間企業で勤めていたとき、それらが一番重要なものだと感じたからです。数学はこれらの力を育むのに最も適した教科だと思います。その為にも、ただ答の出し方をマニュアル化して覚えるのではなく、どうやってその問題を解くのか（解決するのか）を考える、その力と粘り強さ、そして自分でそれを解けた（解決できた）喜びを感じてもらえるような授業、指導を目指していきます。将来、生徒が社会に出たときに地に足を着けてしっかりと働いて、また誰かの役に立っている。そうなることが今の私の目標であり、その為にも日々努力していく所存であります。この気持ち、決意を教員生涯ずっと抱いていきたいと思えます。

## 「初任として」

船橋東高等学校 高橋 和也

大学4年のときに、私は教員採用試験を受けて今年の4月にこの船橋東高等学校に赴任しました。3月に採用の電話が来たときは、漸くここまで辿り着いたということに対してとても嬉しかったことを覚えています。

3月まで大学生だった私は教壇に立ち教育に携わるということがいま一つ実感できていないまま、船橋東高等学校での勤務が始まりました。今、振り返ってみると、教師になれる嬉しい気持ちばかりで現場の大変さを知る由もなく、教師としてとても浅薄であったことを痛感しています。

生徒は勉強に対して勤勉であるが、自主的または意欲的に勉強をするという生徒は少なく感じます。ただ、課したプリントはしっかりとやる事が出来るので、その点においては手間は

かからないと思っています。また、学校の雰囲気は部活動も盛んであるため、活気に満ちています。

そのような学校の勤務が始まって1週間で私はとても後悔をしました。それはいざ授業が始まると難しさを痛感し戸惑うことがたくさんあったからです。毎時間の教材研究は欠かさずに行っていましたが、初任者としてそれだけでは到底足りるはずもなく、過ぎた時間がとても惜しく感じました。私は説明する授業を意識しすぎて、授業ではなく一方的な講義になってしまいました。私は一人でも多くの生徒に分かってもらいたいという気持が強く、説明をしすぎると生徒の積極的な態度や考える力を育てることにつながらないので、とても不安になっていました。気づきや反省は沢山ありますが、今年は、自分なりの授業の仕方や指導法をよく見つめ直していくことに全力を尽くしたいと思います。

3ヶ月ほど経ったとき私は授業で教科書の内容を説明し、問題を解かせていました。私はふと思いついて複素数を拡張した話を生徒達に余談をしました。そうすると興味を示してくれる生徒が多くいて、そのあとの問題演習に積極的に取り組んでいる光景を目にしました。私は、そのときこの学校でやらなければいけないことに気づかされました。それは数学的な考えの本質を少しでも多く教えることです。そのためには多くの勉強をし、私自身もっと多くの知識を勉強しなければいけません。数学の背景にある様々な知識や概要を知る必要があるということです。数学の良さや考え方を生徒に教えていく教師として私の数学に対しての考えや数学の根本的な考えをしっかりと教えていかなければいけないと非常に思いました。

また、私が数学Iの授業で単位円を用いて三角方程式の説明をしているときのことでした。私は説明を終えて質問のある人と聞いたところサインの値から角度を求める図のところはわからないと言われたのでもう一度説明をしました。それを質問した生徒はクラスの中でも数学が得意な生徒だったのでクラスにもう一度説明をしたのですが、それでもわからないと言われました。指導教諭の方に見て頂いていたので、授業後に尋ねると反省点が良く分かりました。自分が理解している通りに説明をしたわけですが、私には生徒が何がわからないのかが分からなかったのです。それは私にとってとてもショックなことで、同時に初任としての課題であるとも思いました。初めて生徒に授業を教える私にとって生徒がどういうところでつまずき、理解に苦しんでいるのかというのを完璧にわかることは大変難しいからです。それからは、机間巡視や説明後の質問をたくさんしてもらうように私から質問して生徒の理解度を把握できるように心掛けています。これを来年度からの授業に生かしていきたいと思っています。

教員である前に私はずっと大事にしていきたいことがあります。それは、素直でいることです。それは教員になってもとても大事なものであると考えています。これから長い教員生活を送っていく上で、自分に素直で誰に対しても等身大の自分を表現し、背伸びは絶対にしないことを続けていきたいです。私は生徒と年齢が近い分、気兼ねなく話しをしているとただ仲よくやっていると思われるのですが、私は「教員である私」という以前に「一人の人として教員である私」を表現したいと考えています。学校は人間の人格形成に大きく関係するところです。素直に接していくことで、こういう人がいるのだということを生徒に理解してもらえるように学校生活を送っていききたいです。また、私はこれからの長い教員生活を十分に楽しみ、生徒と共に毎年成長できるような教員になっていきたいと思っています。

## 「教員になって」

四街道北高等学校 星 安由美

私は大学を卒業して、今年の4月から教員として働き始めました。大学生のときには進路について、「教員にもなりたいけれど『学校』以外の社会をほとんど知らないまま教師として働いていけるだろうか」と、企業への就職を考えた時期もありました。それでもこの四街道北高校に来て教員として働き、早くも8カ月が経ちました。毎日が勉強で、あっという間の8カ月でした。少し振り返ってみようと思います。

はじめ、四街道北高校の生徒は数学を苦手とする生徒が多いと聞いていましたが、自分これまで数学を苦手と感じたことはあまりなかったし、初めて学習したときの感覚を忘れてしまっていたので、どのような生徒たちがいるのか想像がつきませんでした。また、数学の授業をやるのは教育実習以来のことだったのでとても緊張しました。記念すべき第1回目の授業では、自分が理解していることを人に教えるということの難しさを改めて実感した瞬間でもありました。また、うまく伝わらなかったときの、あの生徒たちの表情をととても怖く感じました。生徒たちの予想外の反応の数々に、戸惑うことばかりでした。しかし、教材研究をする上で、その様々な反応はとても貴重なものとなっています。また、指導教官や数学科の先生方に多くのアドバイスを頂きながら、少しずつ授業を進めていけるようになってきていると思います。

また、8ヶ月も経つと生徒のがんばりなどの様子も見えてくるようになりました。初めは自分のことだけで精一杯でしたが、授業中に数学を苦手としている生徒が小テストやワークなどを少しずつがんばっている姿を見ると、とてもうれしくなり、自分ももっと頑張らなくてはと思うことができました。

今はまだ教員として始まったばかりです。これから、学校や生徒を通して、数学を通してたくさんの方のことを勉強していくと思います。この仕事を楽しみ、教員になってよかったと思えるようにがんばっていきたいです。

## 「意志あるところに道あり」

生浜高等学校 水野 麻依子

小学校時代から算数に親しみ、中学校時代に文字や正負の数の新たな登場に魅力を感じました。そして、高校時代に数学の偉大さ、「一隅を照らせ！」という名言に感銘し、いつも生徒のことを一番に考えてくださっていた、高校の数学の先生に感激しています。自分も同じ立場になり、生徒の夢のために縁の下の力持ちになりたい！と熱望しています。

大学卒業と同時に私立高校で教壇に立ち、その傍ら、教員採用試験に挑戦し、数回目の挑戦で初めて合格通知を受け取ったときは、喜びの気持ちで満ち溢れていました。当時の高校時代の恩師も一緒になって喜んでくれました。

平成21年4月より千葉県立生浜高等学校へ着任しました。教員経験は若干あるものの、男子生徒に対して初めて教えること、数学Aや数学Bをはじめて授業をすること、1コマ45分の2時間続きの授業形態をとっていること等々、はじめて尽くしのことが多くて戸惑いました。そういうときに、先輩の先生方に「あまり考えすぎずに、目の前にいる生徒を見て、授業の組立てを工夫していこう」と助言をいただきました。それからは、自分の経験に固執することなく、目の前にいる生徒の現状を把握し、生徒の理解を楽しく深めていけるように、試行錯誤中です。授業の開始5分間で小テストを行ったり、色鮮やかな教具を多く用いたりしています。数学を苦手とする生徒でも、授業に意欲的に取り組み、学習内容を理解できるように心掛けています。また、予想外の疑問や発問をされることがあり、冷や汗を流しています。しかし、それだけ、苦手なことにも積極的に取り組む姿勢を常に感じることで、教員としての醍醐味を実感しています。

実際、教壇に立つと生徒から教わることが多く、感動しています。また、日々生徒が成長していることを肌で感じることもできます。生徒に数学を教えることに行き詰まることもありますが、生徒が楽しそうに数学に取り組んでいる姿を見ると、ますます教材研究に力が入ります。晴れて、千葉県の教員となった今、生徒のためにできることを精一杯行い、自分たちの目標に向かって羽ばたいていけるよう、今後も精進していきたいと思います。

常に、生徒に伝えていることばがありますので、最後に書きます。

「意志あるところに道あり」“There is a way where there is a will.”